

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究報告書

HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査と
その対応方法に関する研究

研究分担者 岡山大学 小川 千加子

研究要旨

「HPV ワクチン接種後に生じた症状に関する診療マニュアル」のブラッシュアップを目的として、Immunization Stress-Related Response (ISRR) を中心として拠点病院を受診した患者の臨床データを収集できるシステム作りに協力した。

2023 年度に“HPV ワクチン接種後の症状”を主訴に当院を受診した患者について、背景・症状、心理社会的環境などについて報告した。対象者は4名であり、症状や所見は多彩であった。いずれの症例も First タッチ医から協力医療機関に円滑に紹介されていた。

協力医療機関であっても HPV ワクチン接種後の症状への対応経験は限定的であるため、全国の症例を共有し、それをもとに「HPV ワクチン接種後に生じた症状に関する診療マニュアル」をブラッシュアップすることは、医療関係者・患者双方にとって必要な支援であると考えられた。

A. 研究目的

本邦において、HPV ワクチンは、令和4年度より積極的勧奨が再開となり、現在では定期接種とキャッチアップ接種が行われている。しかし過去の“接種後の多様な症状”の経緯から、医療者・被接種者・保護者等の接種への不安感を解消することが重要である。社会の不安を軽減し、接種を適切に推進するには、支援体制の強化と共に継続的な安全性評価が必要である。そこで本研究では HPV ワクチン接種後の症状について、①Immunization Stress-Related Response (ISRR) を中心として拠点病院を受診した患者の臨床データを収集できるシステム作り、②HPV ワクチン以外のワクチンでも同様の症状が起こっているかどうかの予備的検討、③過去に良くなった症例の調査、またそれらのデータに基づいて、現在用いられている④「HPV ワクチン接種後に生じた症状に関する診療マニュアル（以下診療マニュアル）」のブラッシュアップを具体的な研究目的とする。

B. 研究方法

初年度の活動として、分担者である当院では、以下の項目について活動を行った。

①HPV ワクチン接種後に生じた各種症状の検討、②臨床データ収集のためのシステム作りへの協力、③診療マニュアルのブラッシュアップのためのデータ収集、④HPV ワクチン以外のワクチンについての情報収集のための準備。

(倫理面への配慮)

本研究については、愛知医科大学倫理委員会および研究班所属施設の倫理委員会を通して行っている。

C. 研究結果

①2023 年度に“HPV ワクチン接種後の症状”を主訴に当院を受診した者は4名であった。2例で四肢の疼痛やめまいなどの全身症状を呈していた。2例は肩関節を中心とした局所疼痛であり、そのうち1例は Shoulder Injury Related to Vaccine Administration (SIRVA) として矛盾なかった。もう1例は肩関節周囲

の遷延するリンパ節腫大を伴っていた。全ての症例が6ヶ月以内に軽快していた。いずれの症例も、患者が接種医へ相談してから数日以内に当院へコンタクトがあった。

②項目①であげた症例および過去の症例で注意を要する症例について、会議で情報共有を行った。患者背景、自覚症状、他覚症状、心理社会的環境、経過などについて報告を行い、WHOによるISRRのリスク因子等の収集について議論した。

③項目①であげた症例への対応が、診療マニュアルに沿っているか検討した。肩関節炎を生じた1例は、診療マニュアル記載の接種時の注意事項を遵守することで防げる可能性が考えられた。全例において、診療マニュアルに記載の手順で紹介・精査・治療や患者説明が進められた。

④HPVワクチン以外のワクチンについての情報収集の準備のため、COVID-19ワクチンの接種後症状の診療にあたっている医師による講演会を開催した。

D. 考察

検討の範囲内では、HPVワクチン接種後症状のために協力病院受診を要する患者は想定より少なく、症状は一定に期間内に改善していた。また、Firstタッチ医から協力医療機関へ円滑な患者紹介が行われていること、おおむね診療マニュアルに沿って診療がなされている点において、現行の診療マニュアルはある程度有効であると考えられた。

しかしながら施設あたりの経験値は少ないと言わざるを得ず、対象期間外の症例では診断・治療に難渋した例もあり、頻度は低いながらも重篤あるいは遷延する病態の鑑別診断や集学的治療の具体的な方法について、他のワクチン接種後症状での治療経験も参考にして、新たに情報提供する必要があると考えられた。

E. 結論

HPVワクチン接種後の症状は多彩であり、症例数も少ないことから、施設あたりの経験値は不十分となりがちである。全国の患者の臨床データを蓄積し、診療マニュアルをブラ

ッシュアップして共有することは、診療の地域および施設格差を減少させ、医療者・患者の双方にとって良い効果が期待できる。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし。

2. 学会発表

- 1) 廣幡 絢子, 小川 千加子, 原賀 順子, 入江 恭平, 白河 伸介, 依田 尚之, 松岡 敬典, 中村 圭一郎, 長尾 昌二, 増山 寿:HPVワクチン接種後症状診療の現状と課題. 第75回中国四国産科婦人科学会学術集会(島根), 2023/9
- 2) 小川 千加子:ヒトパピロマウイルス(HPV)感染と子宮頸がん. 第130回日本小児精神神経学会学術集会(香川), 2023/11
- 3) 鉄永 倫子, 小川 千加子:HPVワクチン接種後副反応に対する診療の実際 HPVワクチン接種後副反応に対する診療の実際 中国ブロックの取り組みを含めて. 第38回日本疼痛学会学術集会(福島), 2023/12

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。